

一般質問

14名の議員からの一般質問があり
理事者の考えを問いました

人件費削減と職員給与の格差是正について

小平 久 議員

三年以内を

目途に調整

問

町づくりの最大の目的は、町民福祉の向上であるとともに、財政の健全化であります。

旧三町の借金総額は、病院会計を除いても、十七年度末見込みで二百十億五千四百万円であり、人件費の削減は大きな課題であります。

しかし、合併協定書では一般職員の身分の取扱い(四)では、「給与については国給料表を基準として・・・なお、現職員については現給を保証し、合併後速やかに給料の格差是正を行うものとする」となっていることを踏まえた中で、次の二点について町長の見解を伺いたい。

①一般職員給料や各種手当の人件費削減をどのように考えているか。

②旧三町間の職員給料にも、かなりの格差があるように聞いているが、格差是正は早い段階で調整すべき問題と思う。

答・町長

①職員給与につきましては、これまで旧三町とも人事院勧告を遵守し、国家公務員給与に準じて改定してきました。

二〇〇五年の人事院勧告の内容は二年ぶりのマイナス勧告となっており、月給を〇・三六%引き下げるとともに、給与構造改革として、二〇〇六年度から給与表水準を平均四・八%段階的に引き下げるなどの内容となっております。

新町におきましても人事院勧告制度を尊重し、自主財源に乏しいまちの財政事情を踏まえながら、身の丈に合った給与制度を職員組合などと十分協議を重ね確立しなければならぬと考えています。

なお、具体策としては、合併によるスケールメリットを求め、住民サービスを低下させない組織機構改革を進めることはもとより、較差の高い医療職職員の各種勤務手当など調整積み残し分について本年度中に見直しを行い、十八年度から均衡が図られるように取り進めてまいります。

また、新規職員の採用につきましては、定年退職者不補充を基本とし、本年度をもって病院医療従事者を除く一般職員九名の退職が見込まれることを踏まえ、新規事業の対応のため、平成十八年度において若干名の職員採用を予定しています。

新せたな町の定員適正化計

画を策定し、職員間に年齢的断層が生じないよう職員数の適正化に務めてまいります。

②職員給与につきましては、まちの財政事情や労働運動の取り組み状況の違いから若干の給与格差が生じていることは事実であります。

北海道は赤字再建団体への転落の危機から組織機構改革による大幅な人件費削減を行うと報道されており、当町においてもその影響が及ぶものと推察されます。また、合併しても脆弱な財政基盤は変わるものではありません。

こうした危機意識を常に念



頭に入れながら、具体策として、

格差調整の基礎となる全職員の仕事記録調書の作成を既に加速させており、せたま町全職員の給与体系が一日も早く公平・公正・透明な取り扱いとなるように進めてまいります。

なお、短期間での格差解消には職員組合との合意形成など多くの課題が予測されるので、十八年度から開始し、三年以内を目途に給与格差の調整を図りたいと考えています。

問・再質問

公正公平の中で、職員は同じような環境で仕事をしていながら格差があることに、不満の方も多いのではないかと。財政の健全化は、人件費の削減ばかりではないが、人件費の削減なくして財政の健全化もあり得ないと思います。この町の将来に悔いの残らない人事のあり方、定数のあり方を掘り下げた意味でお聞きしたい。

答・町長

合併協定書の中に現職員については現給を保証しなければならないというような事項がございます。これを尊重したいと思いますが、格差があるのも事実で、これを何とかしても平準化しなければならぬと思っています。

単年度で平準化するのは無理があり、激変緩和等を考え、段階的に、三カ年程度の時間をいただきながら平準化してまいりたいと思っております。

介護老人保健施設の建設促進について

問

この件については、旧瀬棚町の議会で基本設計委託料六十万円計上され、承認されており、新町の暫定予算でも承認されたものであります。

旧瀬棚町においては、介護保険制度を利用して入所できる施設は一ヶ所もなく、北海道の平成十五年から十九年までの高齢者福祉計画では北渡島・檜山圏域の老人保健施設

の整備目標は二百十六床であり、当時四十六床が未整備でありました。

同じ生活圏にある、檜山北部二町の特養、養護、老健の入所状況はほぼ満床で、待機者も百人を超える状況です。

せたま町の高齢者人口は三千五百人を超え、高齢化率三十三％に達し、超高齢化社会に突入しました。

新町建設計画に盛り込まれていることを考慮して、早急に建設を進めていただきたい。

医療対策協議会等を設置し検討したい

答・町長

旧瀬棚町議会で予算補正された介護老人保健施設の基本設計委託については、委託業務が完了し、基本的な構想として利用者を二十九人とする成果品が提出されています。

町内の介護施設は、民間病院を除いて大成、北檜山区にそれぞれ一ヶ所ずつ設置されておりますが、介護施設は設



置されていない状況にあります。

また、北渡島・檜山圏域の介護老人保健施設の整備可能数は四十六床となっておりませんが、平成十八年度には見直しをされることから、その整備可能数は変わってくるものと思われま。今後、整備するにあたっては、八雲保健所管内の関係機関とも具体的な協議が必要と思います。

介護老人保健施設は、介護老人福祉施設とは違い、医学的管理のもとに、介護及び機能訓練を中心とし、その他必要な医療の提供並びに日常生活

活上のお世話を行いながら在宅復帰を目指した中間施設と考えております。

今後、予定されております介護保険制度の改正や医療制度改革等の中でも示されているように、予防について取り組んでいくことの必要性、重要性がますます増してくるものと考えています。

檜山北部二町にある介護施設は満床状態であり、待機を余儀なくされている状況等を踏まえながら、今後、適切な施設整備計画により取り組みたいと考えています。

介護老人保健施設は一連の医療施設等とのかかわりが大きいことから、平成十八年度に早急に医療対策協議会等を設置した中で、利用人員を含め検討し、他の事業等との財源調整もあわせて、議会を初めとする各関係機関と協議をしてまいります。

問・再質問

老人福祉の取り組みは、産業の振興と共に、地域にとつては大きな課題だと思っております。

老健施設の基本は、中間施設で社会復帰を目指し、作業療法士あるいは理学療法士を配置してリハビリを進めることの認識が必要ではないのか。

この地域では、一次産業に従事してきた高齢者が多く、整形外科領域の疾患を持った方が多くいます。

そういうことから、瀬棚区では早くからこの問題に取り組んできたことを理解していただきたい。

また、基本設計もできていく状況です。

地域にどうしても必要だという瀬棚区民の思いを酌んで進めていただきたい。

答・町長

介護老人保健施設の必要性は、私も認識していますし、瀬棚に施設がないことも承知しております。

合併当初であり、財政状況等も十分考え、失敗のないように進めたいと考えています。

旧瀬棚町においては、十分議論しているというお話ですが、新しい町になったという状況の中では、やはり三町の町民が同意をしなければならぬという前提条件を踏まえ、改めて協議させていただきたい。

ハタハタの増養殖事業について

問

合併によって長磯から須築まで海岸線は五十八kmになり、この前浜を豊かにすることとは、漁業と町の発展につながると思っております。

ハタハタは、主産地の秋田や青森で回復していて、水産庁は「資源管理のモデル」と評価して、道や漁民に呼びかけています。

ハタハタは、毎年同じ場所で産卵する習性があり、回帰性の高い魚であります。産

卵から孵化の季節が十一月から二月、三月であり、季節風による時化の多い時期で卵が流失してしまうため増殖できないといわれています。

瀬棚区のマリントウンは、静穏海域が七割方確保されていますし、静穏海域の利活用の面から是非進めていただきたい。

卵の確保ですが、道内の数ヶ所で増養殖に取り組んでいる所もあり、町長の政治力を持って努力していただきたい。

可能性について

協議したい

答・町長

つくり育てる漁業は重要であると認識しておりますので、各区分で行われております増養殖事業、特に瀬棚区のマリントウン事業や大成区の水産種

苗育成センター事業などは重要であり、ひやま漁協や漁業者と連携を図り、今後より一層つくり育てる漁業の推進を図ってまいります。

主に胆振、日高、十勝、石

狩管内で漁獲がありますが、漁獲量は少なく、各地では回帰調査や卵の自然孵化など資源保護対策について積極的に取り組んでいる状況で、現在は、卵の入手について確認したところ、相当困難であるとの回答です。

水揚げが少ない冬期間の時期にハタハタ漁の水揚げがされることは漁業者も期待するとは思いますが、漁業者、漁協、そして関係機関、試験研究機関等においてこの増養殖事業の可能性について協議・検討してまいります。

問・再質問

つくり育てる漁業は、進めていかなければならない課題だと思っております。

私は、十五年三月議会で質問した経過がありました。

時の町長も真剣に取り組んで、卵を確保して孵化に成功して放流直前に死滅した経験もあるわけです。

マリントウンも七割方静穏海域が確保されて、非常に良

い環境になったと思っておりますし、大成区には現在使われていない水産種苗センターがあります。

大変立派な施設であり、合併を契機にして真剣に取り組んでいただきたい。

卵の入手は困難でしょうけれど、道の水産部栽培漁業課の指導を得ながら、ぜひ取り組んでいただきたい。

答・町長

瀬棚区で試験をしたようですが、結果は残念ながら失敗ということでした。

漁業者、漁協の考え方にすぎましても十分意見をちょうだいして、私としては試験をするに値する部分であるという認識をもっておりますので、今後検討させていただきます。

保育所における子育て支援の充実について

大湯 圓 郷 議員

問

近年、女性の社会進出により、安心して働けるように保育所運営の充実や、子育て支援など健やかにたくましい子供たちが育つ環境作りが必要であります。

現在、瀬棚区の保育所では、親のニーズに応え、〇歳児受け入れや一時保育、更に延長保育（北檜山区では延長保育を実施中）を実施し、保育のサービスの充実に努めております。

しかし、大成区、北檜山区については建物の老朽化が進み、保育室の整備が必要と考えます。

町長は執行方針の中で〇歳児保育・子育て支援等うたっておりますが、一日でも早く町内の若い夫婦が働きやすく子育てしやすくするためにもその実現に当たってほしいものです。

九月には五組の新婚さんが

生まれております。早期に新築あるいは改築の実現と、若い人たちの働く所を増やすためにも、保育士の増員が必要と思いますが、町長の所見を伺います。

十分に検討し、早期実現に向け取り組み

答・町長

保育所における子育て支援の充実については、若い世代が安心して子育てと仕事が両立できる様に、保育サービスに努めたい。

保育料についても、三区平準化を先に取り組んでいきたいと思えます。

〇歳児保育についても、既に瀬棚保育所で実施していますので、北檜山・大成保育園でも実施していきたいと考えておりますが、実施に当た

ては、保育士の人員確保、あるいは施設の整備など課題解決に時間を要するものでありますから、十分検討しながら早期に実現に向けて取り組んでまいります。

施設の関係については、北檜山・大成保育園は、現在利用している施設の大部分は改修してしますので、当面使用は可能と考えています。

〇歳児保育の実施や、多様な保育サービス実施のための構想がまとまった段階で必要

性が出てきたら、整備を検討しなければならぬと考えています。

問・再質問

一時保育の要望があった時、北檜山・大成の保育園では、対応ができない状態でありますので、一日でも早く実施していただきたい。又、両区の施設も今後どのような方針でいくのか答弁をお願いします。

答・町長

まず、〇歳児保育を始める前に、保育料等の格差が非常に大きいものがありますので、これを先にやらせていただきたい。

保育サービスについても、延長保育等をやっているところ、やられていないところ等ありますので、こういった一連のサービスをまず平準化させていただきたい。

その後に〇歳児保育について早急に取り組んでいきたいと思えます。

その際も、もし施設等の改築等の必要性があればしっかりと進める。

又、職員についても、保育士についても、現状若干不足している部分もあります。そういったものを総合的に〇歳児保育等もからめながら適正な人員配置をしてまいりたいと思えます。

